

平成26年度

第9回

ファミリーホーム 全国研究大会

プログラム

in 北海道

ファミリーホームズ ビー アンビシャス

Familyhomes be ambitious!

～子ども達よ未来へはばたけ!～



平成26年 8月2日 土・3日 日

ガトーキングダムサッポロ

●● ご 挨拶 ●●

日本ファミリーホーム協議会
会長 ト蔵康行

第9回ファミリーホーム全国研究大会、北海道大会に全国各地からご参加いただきありがとうございます。昨年のあいち大会のスローガン“原点に帰ろう～イエー（家）”は、今年度の北海道大会“Familyhomes be ambitious!”【子ども達よ未来へはばたけ!】へと引き継がれました。制度化から既に5年が経過し、全国での開設数は200か所を超え、およそ1,000人の子どもたちがファミリーホームで生活しています。

“ファミリーホームよ大志をいだけ”、私たちはそれぞれに志をもってファミリーホームを始めたはずです。それは、立場は違っていても、実家庭で暮らすことのできない子どもたちに、私たちの家庭を提供し、子どもにとって当たり前の生活の場である“家庭”で安心して育てて欲しい、一人でも多くの子どもたちに家庭を与えたいという思いであったと思います。多くの課題を抱えた子どもたちが増える中、私たちはその思いを持ちながら、養育の質を高める努力も続け、子どもたちの必要に応えなければならないと思います。

ファミリーホームは、里親とともに「家庭養護」として、これからさらに大きな役割が期待されていますが、一方で、制度、運用、養育面での多くの課題が現れてきています。この北海道大会は、ファミリーホームの原点に立ちながら、これからさらに子どもたちの支援を進めていくために何が必要か、さまざまな視点で考える場としたいと思います。また、大会には、ファミリーホーム関係者のみならず、里親、施設、行政、研究者など多くの方にご参加いただいています。今大会が、子どもたちの幸せな未来を願う思いを共有しつつ、交流や情報交換の場となり、子どもたちの支援のために実りある大会となることを願っております。

●●● 開催趣旨 ●●●

みなさま、ようこそ! 北海道大会へおいで下さいました。

この度の研究大会は、ファミリーホームが制度化されて5年が経過する中で、全国のファミリーホームが一堂に会し、運営や養育など多くの課題について、話し合い、協議できる貴重な機会であります。

このような大会を北海道で開催することが出来ますことに、実行委員会一同心から御礼を申し上げますとともに、ご協力をいただきました関係行政機関や里親団体、並びにご協賛いただきました団体、企業、個人の皆様に心より感謝申し上げます。

今年ファミリーホーム全国研究大会は、「Familyhomes be ambitious!」【子ども達よ 未来へはばたけ!】をテーマと致しました。このテーマは社会的養護の子ども達のより良い育ちを、ファミリーホームが支えていくという私たちの「志」と、子ども達が希望を持って前向きに歩んで欲しいという「願い」を込めたものです。

子ども達にとりまして、ファミリーホームは日々の暮らしを営む「家庭」です。

この度の大会が、この子ども達の家庭をより一層強固なものとし、惹いては「帰れる家」として一步を踏み出す契機となることを、願ってやみません。

ご多用な中を、全国各地からお集まり頂きました多くのファミリーホームや関係者の皆様に心より御礼申し上げますとともに、今大会が皆様にとりまして有意義で且つ貴重な場となり、更に今後のファミリーホームの発展に繋がりますことを、実行委員会一同心より祈念いたします。

第9回ファミリーホーム全国研究大会 実行委員会

大会概要

大会テーマ 「Familyhomes be ambitious!」【子ども達よ 未来へはばたけ!】

大会期間 平成26年8月2日(土)～3日(日)

大会会場 ガトーキングダムサッポロ 北海道札幌市北区東茨戸132

主催 日本ファミリーホーム協議会、北海道ファミリーホーム協議会

主管 第9回ファミリーホーム全国研究大会実行委員会

後援

- ・厚生労働省・北海道・札幌市
- ・公益財団法人全国里親会
- ・社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国児童養護施設協議会
- ・社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国乳児福祉協議会
- ・全国児童家庭支援センター協議会
- ・北海道新聞社

協賛

- 公益財団法人北海道新聞 社会福祉振興基金
- 公益財団法人 廣西・ロジネットジャパン社会貢献基金
- 株式会社 ホーム企画センター
- 株式会社 ほくやく・竹山ホールディングス
- 北海道エナジティック株式会社 ●株式会社 タクト
- たむら内科クリニック ●札幌西ロータリークラブ
- 北海道マツダ販売株式会社
- 札幌住宅株式会社 ●上出利光様
- 北門信用金庫 ●札幌日産自動車株式会社
- 北央信用組合 ●株式会社ほくみん
- 株式会社 建設保全 ●西岡ひふ科クリニック

(敬称略)

大会スケジュール

8月2日

12:00	12:30	13:00	14:00	15:30	15:45	17:00	17:50	18:30	20:30
受付	1F 開会式 メロロ	行政 報告	記念講演	休憩	基調講演	社会的 養護の 状況 委員会報告	チェ ック イン	交流会 3Fシャルドネ	

8月3日

8:30	9:00	11:30	12:30	14:30	15:00	15:30
受付	分科会 前半 ①ピオーネ ②セミヨン ③マスカット ④リースリング ⑤ミュスカデ	昼食 休憩	分科会 後半	分科会報告	閉 会 式	

託児スケジュール

8月2日

12:00	12:40	16:00	18:00	18:40
3F ミュ スカ デ前 受付	《乳児》保育室(3Fデラウエア) 室内遊び・お昼寝・散歩・水遊びなど		お 迎 え	
	《乳児以外》リゾートプール 顔合せ・約束・安全確認	お祭り広場	お 迎 え	

●託児お迎え:3階ミュスカデ内(乳幼児は、3Fデラウエア)

8月3日

8:30	9:00	11:30	12:30	15:00	15:30	16:00
3F ホ ワイ エ 受付	《乳児》保育室(3Fデラウエア) 室内遊び・お昼寝・ 散歩・水遊びなど	お 迎 え (昼食)	お 昼 寝 ・ 室 内 遊 び	お 迎 え	3F デ ラ ウ エ ア	
	《乳児以外》 バス移動	旧中小屋小学校での遊びバーベキューなど		お 迎 え	3F ホ ワ イ エ	
			「道民の森」での自然・木工体験			

2日
(土)

大会プログラム

開 会 式

12:30~13:00	1階メルロ	司会	北川聡子
開会宣言	第9回ファミリーホーム全国研究大会実行委員長		北川聡子
挨拶	日本ファミリーホーム協議会 会長		ト蔵康行
御来賓挨拶	厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 家庭福祉課 児童福祉専門官		鈴木里香 様
	北海道 保健福祉部 部長		高田 久 様
	札幌市 子ども未来局 局長		岸 光右 様
御来賓紹介	公益財団法人全国里親会 副会長		御所伸之 様
	全国児童養護施設協議会 会長		藤野興一 様
	全国児童家庭支援センター協議会 会長		平井誠敏 様

行政報告

13:00~14:00	厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 家庭福祉課 児童福祉専門官		鈴木里香 様
-------------	-----------------------------------	--	--------

記念講演

14:00~15:30	「おとなにして野に帰す～野生動物診療所日記」 写真家・エッセイスト・獣医師		竹田津 実 様
-------------	--	--	---------

休 憩

15:30~15:45

基調講演

15:45~17:00	「子どもにとっての最善の利益を考えよう」 日本女子大学 教授		林 浩康 様
-------------	-----------------------------------	--	--------

社会的養護 の状況

17:00~17:30	公益財団法人全国里親会 副会長		御所伸之 様
	全国児童養護施設協議会 会長		藤野興一 様
	全国児童家庭支援センター協議会 会長		平井誠敏 様

委員会報告

17:30~17:50	日本ファミリーホーム協議会 会長		ト蔵康行
-------------	------------------	--	------

チェックイン

17:50~18:30 (チェックインは15:00から可能です)

交 流 会

18:30~20:30	会場(受付):3階シャルドネ		
	司会 北海道里親会連合会 理事		太田正一
	挨拶 北海道ファミリーホーム協議会 会長		長谷川寛治
	乾杯 日本ファミリーホーム協議会 副会長		徳田絵美

懇 親 会

21:30~ (自由参加です)会場:地下エクストラルーム

3日
(日)

大会プログラム

受付

8:30～9:00 1階メルロ前(3日のみご参加の方)
ご宿泊の方は、そのまま3階各分科会会場にお入りください。

分科会 [前半]

9:00～11:30 3階各会場

- 【第1分科会】** 会場:3階ピオーネ
養育の実践から学ぶ(困りごと・悩み事・喜びを語り合う)
- 【第2分科会】** 会場:3階セミヨン
ファミリーホームの運営と今後の課題
(運営の事例と今後の政策提言)
- 【第3分科会】** 会場:マスカット
養育補助者・養育者のためのコモンセンスペアレンティング
(アメリカボーイズタウンの養育プログラム)
- 【第4分科会】** 会場:リースリング
子どもの視点で見た子どもの権利
(ビデオプロジェクトによる社会的養護の子ども達の声)
- 【第5分科会】** 会場:ミュスカデ
共に暮らして親になる(家庭養護の真髄)

昼食・休憩

11:30～12:30

《お弁当の引換場所》3階ミュスカデ前にて引換券を持参し、
お受取りの上、各会場にてお食事をして下さい。
また、乳幼児託児の方は、ご一緒にお食事して下さい。

分科会 [後半]

12:30～14:30 3階各会場

分科会報告

14:30～15:00 1階メルロ

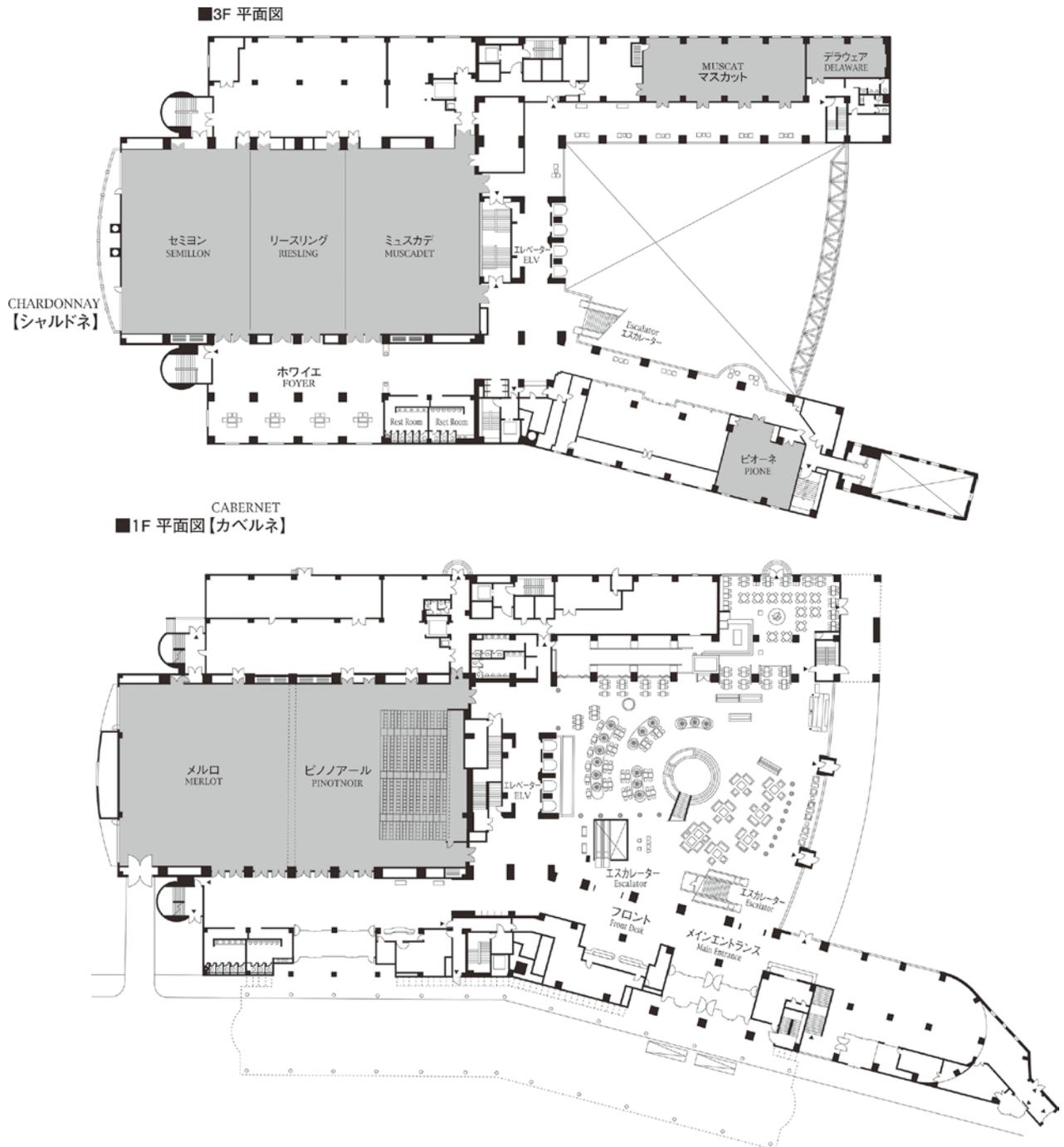
閉会式

15:00～15:30 1階メルロ

- ・総 評 日本ファミリーホーム協議会 会長 卜蔵康行
- ・次回開催地挨拶 九州地区ファミリーホーム協議会準備会代表 大柳弘幸
- ・閉会宣言 日本ファミリーホーム協議会副会長元藤大士

ご参加の皆様へ

- ①会場内では必ずネームカードをご着用ください
- ②会場内はすべて禁煙です。喫煙は灰皿のある場所をお願いいたします
- ③講演会場内での携帯電話はすべて禁止とさせていただきます
電源をオフにするか、マナーモードをお願いします
- ④チェックインは 8月2日15時から1F特設カウンターにて行います。
チェックアウトは8月3日9時となっております
- ⑤8月3日帰りのシャトルバス(札幌駅行き)は、1時間ごとに出発しています。
16:00の便は増便致します。最終便は、23:00です。
- ⑥宿泊者の朝食は1階レストランです(添い寝の子どもの朝食は、別途料金がかかります)



「おとなにして野に帰す～野生動物診療所日記」

竹田津 実； Minoru Taketazu

写真家・エッセイスト・獣医（北海道東川町在住）



- 1937年4月 大分県生まれ
- 1963年 岐阜大学農学部獣医学科を卒業
学生時代よりオジロワシの調査等で知床半島に滞在
- 1966年～ 小清水町において、キタキツネの生態調査を続ける
- 1972年～ 傷ついた野生動物の保護・治療・Uハピリを始める
- 1974～78年 映厨「キタキツネ物語」企画・動物監督
- 1979年～ ナショナルトラスト「オホーツクの村」建設運動を始める
- 1986年 イギリス・プリストル Wild Screen ‘86において監督作品「Loads of Hokkaido」に対して審査員特別賞を受賞
- 2006年 「子ぎつねヘレンがのこしたもの」（偕成社）が映画化

著書

- 【写真集】 「跳ベキタキツネ」「ジュニア写真動物記」シリーズ
「写真集 キタキツネ物語」（以上平凡社）
「エゾシロチョウ オホーツクの丘の群舞」（北海道新聞社）
「ひぐれみち」（世界文化社）
「森のお医者さん」シリーズ（国土社）「えぞ王国」（新潮社）
「ハクチョウ」「シマリス」等「北国からの動物記シリーズ」（アリス館）
- 【エッセイ】 「のんぺえ獣医の動物記上・下」
「キタキツネ飼育日記 正・続」（以上平凡社）
「北の大地から」（恒文社）「自分の足をかじるキタキツネ」（朝日新聞社）
「森の王国」「家族になったスズメのチュン」
「子ぎつねヘレンが残したもの」
「写真記 野生動物診療所」（以上偕成社）
「タヌキは先生・キツネは神様」（学研）「タヌキのひとり」（新潮社）
「野生からの伝言」（集英社）「オホーツクの十二月」（福音館書店）他
- 【創作童話】 「パルーンで飛んだピーコのゆめ」（学研）
- 【共 著】 「北海道の鳥」（北海道大学図書刊行会）他
- 【絵 本】 「どうぶつさいばん ライオンのしごと（絵：あべ弘士）」等
「どうぶつさいばんシリーズ」（偕成社）他

「子どもにとっての最善の利益を考えよう」

日本女子大学 人間社会学部社会福祉学科 教授 林 浩康 様

(資料)『里親と子ども』明石書店、第9号(掲載予定、未定稿)「里親養育の社会化と養育観」

1. 問題意識

『里親及びファミリーホーム養育指針』では里親は社会的養護の担い手としての意識をもち、自身の子育て観に固執せず、養育を「ひらき」、社会と「つながる」必要性について述べられている。本稿ではこうした養育のあり方を養育の社会化と捉え、主に幼児期以降の子どもに関するそのあり方を中心に論じることとする。里親養育の社会化とは、当該里親以外の者が養育の一部を担うという養育機能の外部化だけではなく、子どもの委託過程あるいは委託後における関係者との会議の開催、養育に関する里親家庭外の者への相談等も養育の社会化として捉えられる。里親家庭に養育を任せっきりせず、かつ養育上の課題を里親個人の問題として捉えず、里親家庭外の関係者と共有する体制のあり方を社会的に保障することがきわめて重要なことである。

これまで里親家庭における養育に関しては里母子関係が中心に論じられ、子どもの成長・発達のために、里母は委託当初の一定期間は育児に専念することを要請されることもあった。こうした考え方に基づいた養育観は里親家庭に大きな影響を及ぼしている。いわば専業主婦モデルを是とする養育観に対し、そうした養育観の検証および新たな養育観に基づいた養育モデルについて論じることが本稿の主たる目的である。

2. 言説の検証

子育ては古くから母子関係以外の関係によって大きく支えられてきた。高度経済成長期以降そうした母子関係以外の関係性が減少・希薄化し、とくに近年その傾向を強めてきた。現在、同居家族以外の関係性を子どもに提供することが困難な状況のなかで、母親への負担が肥大化する傾向にある。それは里親家庭においても同様である。

一方、長年養子縁組を前提とした里親委託に大きく貢献されてきた岩崎氏は以下のように述べられている(岩崎 2013)。

「(大阪家庭養護促進 ; 筆者加筆) 協会は、子どもを引き取った最初の1年間は、特に里母には育児に専念してもらいたいと考えてきた。……何故、少なくとも1年は育児に専念してもらいたいのか。それは働く母親のためではなく、新しい親との信頼関係を確実なものにしたいと願っている子どもが必要としているからである。……同じ人によって世話される日々の積み重ねが、子どもに、世話をしてくれる人(先ず母)への信頼を形成する。その信頼が、人が構成する社会への信頼の基礎になると、私は信じている」

このような考え方は今日における里親養育において大きな影響を及ぼしている。母子関係の形成を基盤に据え、その関係性が人間関係の基礎となり、それが十分に形成されるまではその関係形成に母親は専念しなければならないという考え方である。これは階層的組織化モデル論と呼ばれ、現在では統合的組織化モデル論という考え方も提示されている。またより広い文脈で子どもの発達を捉えようとするソーシャル・ネットワーク理論においても、子どもは母親を含む多様な人物から成るネットワークの中で、複数の養育関係を同時に形成しながら育つと考えられ（Lewis2005＝高橋恵子監訳 2007）、統合的組織化モデル論と共通した捉え方がなされている。

階層的組織化モデル論の考え方は、母親など特別の対象者の影響を前提とするが、統合的組織化モデル論は、母親以外の対象者も対等に影響すると考え、いくつかの養育関係を統合してそれを形成するという見解に基づいている。母子関係という二者だけを問題にする枠を越える必要性や、アタッチメント形成を乳幼児期に限定せず、生涯を通して形成されるという見解について論じられてきた（Lewis2005＝高橋恵子監訳 2007）。

さらに近藤氏は愛着療法の問題として「育てなおし」という概念の間違いを指摘している。子どもの発達段階・ニーズに応じた対応が必要であり、0歳に戻った対応をすればいいのではないとしている（1）。しかしながら岩崎氏は以下のように続ける。

「(里母；筆者加筆)はひたすら子どもと過ごすことで、新しい母の匂いを記憶させるところから始めないといけない。それは仕事をしながらできることではない。……何歳の子どもを引き取ろうと、親子という信頼を築くためには0歳まで退行し、0歳児として扱ってくれることを要求するのである。……母でなければならぬ子どもとの関係を築きあげるのに最低1年は必要である」

このように養育関係を母子という二者関係に限定する階層的組織化モデル論がもつ強力な信念に阻まれて、養育の社会化が進展しない現状がある。里親家庭養育は「育てなおし」という言い回しを使い、そうした養育観をさらに強めて活用される傾向がある。日本では主たる養育者を支援し、養育の実際を主たる養育者に委ねることを前提に、子育て支援枠組みが設定されている。したがって子育て支援の中核には親支援が位置付けられ、親子分離を強られるような養育支援は緊急支援として捉えられる傾向にある（2）。それは里親養育についても同様であり、里親と分離される養育支援には慎重であるといえる。また連携、協働、ネットワークといったことばは里親を支援の対象として中核に位置付ける構図でもって語られ、里親をチームの一員として位置付け子どもの養育についてともに考えるという視点が希薄化する傾向にある。

養育支援とは、里親である主たる養育者との生活を基盤としつつ、他の養育者を社会的に提供するこ

と、子どもの養育に関する検討やケア計画の作成を専門職とともに行うミーティングへの参画、子どもへの治療的ケアの提供などを意味するといえる。

里親以外の養育者がアタッチメント対象となりうる条件としては、①身体的・情緒的なケアをしていること、②子どもの生活の中における存在として持続性・一貫性があること、③子どもに対して情緒豊かに関わっていること、以上の3点があげられている（初塚 2010）。以上のことを踏まえると、ある程度の個別的関係形成が保障される保育所、ベビーシッター、レスパイト・ケア等の利用は十分に子どもの成長・発達を促す資源になりうると考えられる。レスパイト・ケアは里親の休息という側面だけではなく、主たる養育者以外の養育者との出会いによる発達の促進、子どものアタッチメント形成を促進する養育支援としての可能性のあるサービスであるといえる。レスパイト・ケアということばを子どもの立場から再定義し、より里親が活用しやすいサービスとなる必要がある。

3. 「複数養育」体制の必要性

先に述べてきたように子どもは複数のアタッチメント形成を図りながら成長・発達するという考え方について、以下のように述べられている。

「Bowlby は、アタッチメント対象者との分離経験が少ないほど安心な状態と考えたが、例えば母親が専業で子どもを育てており、他に持続的に子どもの養育に関わる大人がいない場合には、母親との分離時に、ストレスを緩和してくれる大人がいないことになり、子どもの苦痛は大きくなる。一方、例えば、父親、母親、祖父母、保育者などの複数名の大人が持続的に子どもの養育に関わっている場合、子どもは複数のアタッチメント対象をもつことになる。その場合、アタッチメント対象の1人からの分離や喪失を経験しても、他の利用可能な人物がいることが分離や喪失への反応を緩和することになる（北川 2008）」

またアタッチメント対象が母親だけである問題について指摘されている。アタッチメント対象が母親1人である場合には、母親との分離や母親の養育の質の低下が、即、子どもの発達へのマイナスの影響を意味することになるのに対し、母親以外にもアタッチメント対象がいれば、子どもはその母親以外の者をも「安全基地」として利用することができるため、発達へのマイナスの影響がなくなるか、少なくとも限定的になると論じられている。このようにして、数人の養育者との間でアタッチメント関係を形成し、「アタッチメントのネットワーク」を持っていることが、子どもの発達にとって重要であると考えられている（初塚 2009）。

すなわち階層的組織化モデル論に基づき、母親との関係がすべての関係の基礎となるという考え方ではなく、複数のアタッチメント対象との関係の安定が、子どもの発達に肯定的影響を与えるという理解が妥当であろう。母

親のみという考え方ではなく、複数のアタッチメント対象という考え方の妥当性に関するエビデンスが既に提示されている（北川 2008）。

筆者が懇意にさせていただいている里親さんのなかに、委託当初からレスパイト・ケアや保育所を積極的に活用されていた方がいる。4歳で委託された子どもにレスパイト・ケアについてよく説明し、時には少々渋る子どもにお願いして定期的に活用することもあったと言われていた。そのお子さんは深刻なネグレクトを家庭で受けており、その後の養育の中で身体的虐待を多少受けていたことが明らかとなり、アタッチメント形成に深刻な課題を抱えていたと考えられる。

児童相談所の里親担当にも恵まれて、里親さん自身も参加してケース会議が開かれるようになってから、公的養育者であることを意識されるようになった。ケース会議を通して里親だけで育てるのではなく、養育を共有する必要性を実感でき、積極的に周りの力を借りるという意識が形成された。そのため、里親として子どもとの生活を心から楽しめるようになったことを強調されていた。育ちづらい環境で育ったが故に生きづらさを抱える子どもの成長・発達に、委託当初から複数の養育者によって促された事例といえる。

一方で里親養育における委託当初の保育所利用については、「里親家庭という新たな環境に放り込まれた子どもが、同時に新たに保育園という不慣れな環境に身を置くことは、子どもにとって大きな負担となるだろう。また、ある程度慣れて、退行などさまざまな情緒的訴えを里親に対して出した時に、その元を離れることで情緒表現の対象を失い混乱する（金井 2013:54）」こともあり、「試し行動」などの期間が長引くこともあると述べられている。十分に考慮されるべきことではあるが、子どものレジリエンシーや適応力にも信頼を寄せ、先の事例のように委託当初から保育所やレスパイト・ケアを活用することも一考の余地があると考えられる。この里親さんは最近レスパイト・ケアを頻繁に活用することに対し、児相職員が子どもへの悪影響を懸念されていることを知りショックを受けていた。レスパイト・ケアを活用しているからこそ、子どもに対し意識的にかかわりが可能であると断言されていた。主たる養育者が子どもを預けるということに対する否定的捉え方は専門職の中にも根強くあり、それが里親養育を困難にしている面があるのではないだろうか。とくに実親との別離体験を抱える子どもに対しては、先に言及した階層的組織化モデル論に基づき、預けることに対し拒否的傾向にあるといえる。

今後里親養育を推進する上で重要なことは、ある程度一貫した複数の養育の担い手を委託当初から確保し、インフォーマル、フォーマルな資源を含め疑似血縁的関係性の提供を保障することではないだろうか。しかしながら現実的にそうしたサービスが十分に提供できない状況および先に述べた養育観により全面的に養育を里親に依存せざるを得ない状況が存在する。

先に提示したアタッチメント形成の3条件を満たし、ある程度個別の関係性を図れる複数の養育者を統合的組織化モデル論に基づき委託当初から想定することがいかなる子どもにとっても重要なことではないだろうか。

4. 海外における支援モデル

(1) インフォーマルなネットワークづくりを社会的に支援するモデル

アメリカのワシントン州において積極的に導入されているファミリーモデル (FM) という里親養育相互支援システムはまさにこうした複数の養育者を里親同士で提供し合う相互支援モデルであり (3)、疑似拡大家族の形成を社会的に支援する養育モデルである。簡潔に論じると、6~10里親家庭がネットワークを組み、子どもを受託していない中核となるベテランの元里親家庭はレスパイト・ケアや相談支援を提供し、行事やケース会議の実施拠点にもなる。

このFMに関するマニュアルでは『積極的な子どもの保護(Active Child Protection)』という概念が提示されており、「子どもや青年たちの安全やウェルビーイングに貢献する複数の大人と肯定的かつ信頼できる関係をもつことを保障することである」と述べられている。主たる里親と同時に複数の一貫した里親とかかわりを持ち、子ども同士も行事や食事会を通してつながりを持ち、孤立化の予防を図っている。育ちづらい環境で育ち、生きづらさを抱える子どもだからこそ、複数の養育者が必要であり、そうした支援的環境のもとで気遣われる体験を積み重ねることで、子どもの自尊心の回復が可能となる。また主たる養育者は子どもとより肯定的関係形成を図ることができる。不調を起こした場合は同じネットワーク内で措置変更されることもある。子どもが家出先としてネットワーク内の里親家庭を活用することもある。FMの導入により子どもの措置が安定したことが明らかにされている。

アメリカのFoster Club というケアリーバーの当事者組織は措置解除後の一貫した支援者を提供するプログラムを創案している (4)。組織のファシリテーターが子どもの自立を支えるサポーター・アダルトをケアリーバーに提供し、措置解除後の支援を引き継いでいる。日本では里親がそうした機能を担わざるを得ない状況にある。『里親及びファミリーホーム養育指針』にも里親家庭は子どもが「・・・成人したあとも、実家のようにいつでも訪問でき、また、相談に応じられるような交流を継続する」とはあるが、子ども自らが措置解除後里親と関係を継続することを望まない場合もある。さらに里親にそうした機能を求めることに賛否両論がある。すなわち社会制度の不十分さを里親のボランティア精神で補完し、措置解除後も愛情行為を煽る側面があるという批判である。里親との関係を継続しつつも、他の支援者を社会的に保障し、措置解除後も複数での養育体制を確保する必要性があるといえる。

(2) 委託機関によるチーム養育の提供

里親委託率の高い一部の欧米・オセアニア諸国では、チーム養育やチームペアレンティングという考え方が強調されている。チームは同一の委託機関の職員、あるいは他機関の職員で構成され、福祉、心理、医学、教育分野など学際的専門職により構成される。また重要なことは、里親自身がチームの主要な構成員であり、場合によっては子どもも一員になって自らの課題をともに考えるというスタンスを取る場合もある。子どもの養育支援、すなわち子どもの育ちを支援するネットワークを意味する。

イギリスにおける民間の里親委託機関から子どもを受託している里親は「いつも課題をともに話し合い、いかに子どものニーズに対応するべきかをチーム全員で話し合っている。全員が対等な関係であると感じている(Staines, Farmer and Selwyn 2011, 321)」と話している。またイギリスでは民間機関から委託を受けた里親の方が自治体より委託を受けた里親より、チーム養育を実感できるという調査結果が示されている(Staines, Farmer and Selwyn 2011, 323)。

ソーシャルワーカーとしての資質を高めることが困難な日本における児童相談所職員に大きく依存した里親委託は里親家庭への養育の依存状態、里親と委託機関の信頼性の欠如が養育困難を深めている側面があるといえる。イギリスのように長期間勤務できる民間の委託機関はソーシャルワーク実務の質向上のためには必要不可欠である。

チーム・ペアレンティングの意義としては、以下のことがあげられている。

- ・里親委託された子どもたちは、子どもの情緒、認知、行動上のニーズや社会的、発達上のニーズを理解している養育者と専門職に囲まれる。

- ・養育者や専門職のネットワークは子どもの回りに比喩的に言えば「治療的コミュニティ」をもたらす(Caw et al., 2014, 94)。

対等な関係性に基づいたチーム養育の具体化により、子どもに育ちのネットワークの提供を図ることが、日本の里親養育支援における今後の重要なテーマであるといえよう。

5. おわりに

養育の社会化のなかで最も重要なことは「複数養育」の具体化過程であるといえる。その基盤にどういった養育観を据え、その養育観に基づきどういった「複数養育」のあり方を具体化するかを再検討する必要性を強く感じる。現在のように家庭が閉ざされ、核家族が一般化している状況のなかで、階層的組織化モデル論に基づきアタッチメントの形成を図る努力を里親家庭に求めること自体問題があるといえる。ある意味いわゆる「愛着論」や主たる養育者の一貫性を強調する「パーマネンシー」概念の誤解に起因する養育論が里親養育の社会化を阻害しているといえないだろうか。養育者の一貫性とはどういうことか、改めて検討する必要があるといえよう。

注

(1) 2014年3月1日に開催された「養子と里親を考える会」での報告で言及された。

(2) 近年、子育て支援と社会的養護の架け橋となるような社会的取り組みも行われている。市町村と都道府県によるこうしたサービスの連続性が大きな課題である。実親との生活を基盤にしつつ、子どもが複数の養育者の元で生活することが市区町村中心に進められている。たとえば、里親を活用した在宅版週末里親や、一般家庭を活用したショートステイなどである。藤藪亜由美(2014)「地域で子どもを育てる」『世界の児童と母性』76巻, 16-22、都留和光(2014)「地域における社会的養護のあり方を考える」『世界の児童と母性』76巻, 23-27を参照。

(3) <http://www.ifcaseattle.org/jp/news/all/170/> を参照

(4) <http://www.nrcyd.ou.edu/publication-db/documents/permanency-pact.pdf> を参照

「養育補助者・養育者のスキルアップのための コモンセンスペアレンティング」 (アメリカボーイズタウンの養育プログラム)

- 進行役:北川聡子(社会福祉法人麦の子会)
松川和人(情緒障害児短期治療施設あゆみの丘)
- 助言者:土淵美知子(札幌学院大学特任教授)

午 前

- セッション1 どのように育ちを学ぶのか 「発達・適切な期待値・育み」
- セッション2 私の最初の先生「見て話す・結果」
- セッション3 良いところを見つけて 「効果的なほめかた」

午 後

- セッション4 どうすれば良いのか教えて 「予防的教育法」
- セッション5 正しくするの手伝って 「問題行動を正す教育法」
- セッション6 落ち着くの手伝って「自分をコントロールする教育法」

第3分科会

養育補助者・養育者のスキルアップのためのコモンセンスペアレンティング (アメリカボーイズタウンの養育プログラム)

全体進行 北川 聡子 社会福祉法人麦の子会
講 師 松川 和人 情緒障害児短期治療施設あゆみの丘
助 言 者 土淵美智子 札幌学院大学

私たちは、あなたがCSPのスキルが、あなたが直面する日々の問題に役立つと確信しています。私たちは、CSPのスキルがあなたのような家族に効果が現れるのを見てきたからです。コモンセンス育児法で学んだスキルを用いた親からは、子どもの問題行動が減ったという報告を得ていること、また自分の家族と、親としての役割に、より満足していると言うのを聞いているからです。もうひとつの私たちの自信の理由は、あなたです。

子どもの親は、私たちが出会った最も驚くべき人たちです。子どもを持つ親は、行くに関してたくさん希望を持っています。すなわち、愛、やる気、思いやりと配慮、忍耐、聴く能力、犠牲心、ユーモア、創造性、柔軟性、子どもの成功に興奮し、過ちを許す能力、学習意欲などです。

「子どもの視点で見た子どもの権利」 (ビデオプロジェクトによる社会的養護の子ども達の声)

- 講演者:ボブ・ルイス(米国)
- 助言者:林浩康(日本女子大学 人間社会学部 社会福祉学科 教授)
- 発表者:内藤皓基(豊田加茂児童障害者相談センター)
- 司会者:藤田慶一(札幌市子ども未来局 札幌市児童相談所 所長)
- 通訳者:泉 園子
- 担 当:古家好恵(社会福祉法人麦の子会)

青少年の声をとらえること、正しく見直すこと ビデオプロジェクト

ロバート(ボブ)・G. ルイス
教育学修士/社会福祉学修士/クリニカルソーシャルワーカー

ビデオプロジェクトは、若者がコントロールし、若者が進める、画期的なツールです。年少者の表現媒体である簡易ビデオカメラを使って、手順に従い段階的に癒しを進めていきます。カメラを利用することで内面的・個人的なコミュニケーションが取りやすくなります。ビデオ撮影というよりソーシャルワークの過程ですが、癒しの活動にデジタル世界を持ち込んだものとなっています。また、より健全な視点から若者をとらえる方法で、家族や地域社会との絆を取り戻す準備をする上で青少年に役立つツールです。ビデオプロジェクトは、ソーシャルワーカーに限らず青年が信頼を寄せる人々を広く対象としていますし、何よりも、声に気づいてほしい、声に耳を傾けてもらいたい、と望んでいる年少者たちのためのものです。

アメリカでは、生みの親から引き離され危険から救われたにも関わらず、その後「里親」の下で引き続き危険にさらされる子どもたちがいます。政府や施設が親にとって代わることはできません。公的ケアから速やかに子どもたちを、安全、安心で愛情ある家庭に移す必要がありますが、現行のシステムで若者たちは常に監視の目にさらされます。若者のニーズを観察するために我々が用いるツールの大半、彼らを追跡フォローするツールは全てが、マイナス面に目を向けるものです。ある会合で、19歳の女性が非難するように人差し指をふりながらこう語りました。「あなたたちは私たちの過ちを一つ残らず見逃すまいと目をこらしています。あなたたちは私たちが間違いから何も学んでこなかったと思っています。あなたたちは私たちの過ちを皆に吹聴しなければならないと考えています。」

「共に暮らして親になる」 (家庭養護の真髄)

■講演者: 芹沢俊介(評論家)

■座談会:(進行役)家村昭矩(名寄市立大学短期大学部特任教授)、
斎藤真理子(斎藤ホーム)、木村瑞穂(社会福祉法人麦の子会)、
ト蔵康行(ざおうホーム)

第5分科会

共に暮らして親になる (家庭養護の真髄)

講演者 芹沢俊介(評論家)

二重の親→「生物的な親」から「受けとめ手としての親」へ(2014・8・3)

○子どもとは特定の男女の間に生まれるのち

- ・子どもから見たときのこの男女を両親と呼ぶ
- ・ここから始まる間における親子のいとなみを「子育て→養育」という。
- ・間で育てる(子育て) 間に入れて育てる(狭義の養育 養親、里親、FH等)
- ・子育て一養育は、我が子という特定の子どもを対象にしている。
- ・「子育て一養育」は、排他的「この子だけが可愛い、大事」 自然が命じる家族エゴ
- ・いのちはこの両親という特定の存在によって受けとめられて、はじめて「このいのち」という特定性として存続し得るのである。「このいのち」という特定性として安定的に存続している状態を、ウィニコットは「ある」と呼んだ。
- ・排他的なかわり ―自分だけの受けとめ手による受けとめられ体験―を貰うこと
によって、子どもの存在は他者へと開かれる→逆説
肯定的な人間関係を形成する原型がつくられる

○どのような排他的な親子関係、子育て一養育が他者へと開かれるのか

A「生物的な親」から「受けとめ手としての親」への移行によって

*これまでの一般的な言われ方「産みの親と育ての親」

育ての親という用語をなぜ使わないのか

1産みの親と別の存在というイメージが強い

2育てという言葉は養育論が全部入ってしまうほど広くかつ曖昧

3儒教的な恩愛の情が入り込んでしまっていて倫理的。概念として使えない。

4移行の観点がない 「親になる」「親子になる」という養育論の観点がない

5この移行が子どもにとって最大の幸福

→二重の親

B受けとめ手としての親は、どこから発想されたか

子育て→養育の基本は受けとめである

・根源的受動性 子どもの存在様式

→イノセンス(責任がない)、イノセンスの表出(責任のある人を求める。赤ちゃんの姿そのものがイノセンスの表出)

・受けとめられ欲求、受けとめられ欲求の表出

・受けとめ、受けとめがなければいのちはたちまち存続の危機に

・受けとめ手

・受けとめられ体験

これらの不可分の用語の有機的結びつきが「親子になる」プロセスを作り上げる

→最早期の受けとめられ体験 原初的母性的没頭

C受けとめ手とは——特定のいのちの特定の受けとめ手のこと 特定のいのちの表出を受けとめる特定の受けとめ手になるということ

→受けとめは、受けとめられ欲求(イノセンス)の表出の受けとめ

→その子に自分を差し出しつつ、その子の傍らにその子のために一緒に居続けること
によって実現可能なる

○受けとめ手になることがいのちにもたらす基本的な効果について

1「ある」の生成・形成

受けとめ手による受けとめられ体験をもらった子どもは、安心して安定的に自分が自分であっていいという感覚を得る。

→「ある」の感覚 もう一人の人間——おとなと一緒にいることによって得られる統合の感覚 統合の失敗disintegration→不安

→受けとめ手との間に確かな愛着関係が成立する

2 信頼の2つの型 RELIABLE TRUST(エリクソンにはRELIABLEがない)

「ある」の感覚を受けとめ手に永続的に保障されるという経験が、受けとめ手に対する絶対の信頼を生み出す。

— この場合の信頼は安心して依存できる、安心して寄りかけられる、安心して頼れるという受身の感情 reliable-reliability。そのような受けとめ手への信頼(reliable-reliability)を原基に、子どもは他者を主体的に信頼すること(trust)が可能になる。

○生物学的親の受けとめ手としての親への移行は本能ではない。選択

- 選ぶか選ばないか 選ばなければたちまち子どものいのちの存続は危機に
- ・受けとめ手の働きの基本は受けとめ 養育(子育て)の基底
- ・「親子になる」の原点—産みの親→受けとめ手としての親への移行
- ・里親は生物学的親にはなれない 受けとめ手としての親になることを選択すること
- ・福祉施設の最重要の課題 受けとめ手としての親になること

○母性——

- ・生物学的な親が、自分たちの間に生まれた「このいのち」の受けとめ手になることを引き受けようとする過程に生じる、いのちへの特異な感受性およびその感受性の高まりのこと→原初的母性的没頭(primary maternal preoccupation)
- ・母性は本能でも自然でもない、生物学的親に特有なものではない。その子の受けとめ手(特定の愛着の対象)であることを選択することによって生じる受けとめの姿勢およびそのことが子どもにもたらす喜び、安心、安定。
- ・子どもといういのちは、受けとめ手による「受けとめ」(母性)そして受けとめ手に受けとめられたことで得られる「受けとめられ体験」(母性体験)がなければ、存続することはできない。
- ・このような母性は生物学的な母親でなくとも、その子の受けとめ手を引き受けようとするところならどこにでも生まれ、発揮される
 - 父親、きょうだい、叔父叔母、里親、福祉施設の職員、保育士

○虐待

- ・「生物学的な親」から「受けとめ手としての親」への移行の失敗
 - 子供にとっての不幸
- ・受けとめ手の不在 受けとめられ欲求の表出が不能 受けとめられ体験の欠如
いない いるのにいない →孤独 よるべない状態

第9回ファミリーホーム全国研究大会実行委員

大会長	ト蔵 康行 日本ファミリーホーム協議会会長
副大会長	長谷川寛治 日本ファミリーホーム協議会副会長 北海道ファミリーホーム協議会会長
実行委員長	北川 聡子 (社会福祉法人) 麦の子会
副実行委員長	岩松 弘毅 北海道ファミリーホーム協議会副会長
実行委員	家村 昭矩 名寄市立大学短期大学部特任教授
	土淵美知子 札幌学院大学特任教授
	大場 信一 児童養護施設 札幌南藻園園長
	太田 正一 北海道里親会連合会理事
	田中 貞美 札幌市里親会会長
	近藤 愛子 ファミリーホームぶどう
	田村 祥子 ファミリーホームウイズユー
	西野 智子 北海道ファミリーホーム協議会理事
監査役	松浦 定雄 緑ファミリーホーム
	釜 実 宗谷ファミリーホーム
オブザーバー	横堀 大元 北海道中央児童相談所 主査
	藤田 慶一 札幌市児童相談所所長
事務局	古家 好恵 (社会福祉法人) 麦の子会
	加藤 文秋 (社会福祉法人) 麦の子会
	近藤 太一 ファミリーホームぶどう
	竹内 透 (福) 麦の子会ガブリエルホーム

大会事務局 〒007-0839札幌市東区北39条東12丁目1-7
TEL/FAX 011-776-7786 fhgaburi@gmail.com

第9回ファミリーホーム全国研究大会開催にあたり
ボランティアのご協力を頂きありがとうございます。

経専北海道保育専門学校様
札幌社会福祉専門学校様

第9回ファミリーホーム全国研究大会開催にあたり
 広告のご協賛を頂いた企業・団体の皆様

ASAHIKAWA
 CATV
ポテト
 地域に「貢献・密着・活性化」

テレビも ネットも 電話も

地元企業のポテトにおまかせ!

旭川市・東川町・当麻町・愛別町・鷹栖町・比布町 まだまだ広がるネットワーク!

旭川ケーブルテレビ株式会社 旭川市8条西2丁目2-16 ☎0166-22-0707



HOKKAIDOENERGY

快適カーライフのお手伝い

北海道エネルギー株式会社
 ノースタウン39SS

札幌市東区北39条東15丁目
 TEL 011-753-7200
 FAX 011-750-2953



北央信用組合
 栄町支店

〒007-0841
 北海道札幌市東区北41条東8丁目2-3
 TEL 011-751-1751 / FAX 011-741-0013



しあわせの窓口

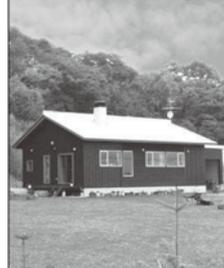
札幌信用金庫

SAPPORO SHINKIN BANK

〒060-0042
 札幌市中央区大通西4丁目新大通ビルディング
 TEL 011-241-2122
 さっしんホームページ <http://www.sasshin.co.jp>

北海道の田園文化を創造する
辻野建設工業株式会社

北海道石狩郡当別町末広380番地
 TEL 0133-23-2408 / FAX 0133-23-3591



札幌西ロータリークラブ

社会奉仕委員長 石黒直文

北海道札幌市中央区北2条西4丁目北海道ビル902号
 TEL 011-231-1297 FAX 011-222-2744



ユニフォームはレンタルが便利でお得です

清潔で安心 定期的な洗濯と優れた衛生機能で、いつでも清潔です。

コスト削減 お支払いは毎月のレンタル料金だけ。初期費用もかかりません。

手間いらず 従業員の増減、サイズ変更、補修、在庫等、管理もお任せください。

サニクリーン株式会社 **サニクリーン北海道** TEL.011-820-2727
 ユニフォームレンタル事業部 札幌市豊平区平岸3条 9-15-24



よりおいしく、よりお安く、よりお近くに

みよしの さっぽろ

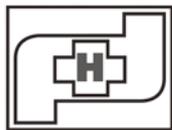


新車から中古車まで
安心保障をつけてお客様へ



〒079-8419 旭川市永山9条5丁目1番18号
TEL 0166-47-5767 FAX 0166-47-1620
<http://www.ishikawa-car.co.jp>

医療法人社団



はやし内科 胃腸科 小児科 医院

林 英 樹 子
林 朋 子

〒078-8243 旭川市豊岡13条5丁目1番3号
TEL 0166-33-2277 / FAX 0166-34-7369

Aci Architectural Confirmation and Inspection of Asahikawa Co.,Ltd.

指定確認検査機関

株式会社 建築確認検査機構あさひかわ

旭川市5条1丁目1437番地シェロス5条302・502
Tel 0166-29-4416 Fax 0166-29-4417
E-mail kakuninkensa-asa@potato.ne.jp

平成20年5月8日、旭川圏におきまして初めての指定確認検査機関として指定を受けました。当分の間確認検査業務の対象を一戸建て住宅に集中・特化することにより、速く、安全で、便利で、安くという顧客ベネフィットが十分に確保されるよう、確認検査業務を公正かつ適確に実施いたします。

サザエ 中勝おぼろぎ

十勝産小豆100%使用



サザエ食品株式会社

本社/北海道札幌市中央区宮の森4条1丁目1-35
電話番号(011)644-3366 FAX(011)644-5342
www.sazae.co.jp

正確・安全・快適をサポート

はかり・温度計・検査システム・ラベルプリンタ
旭川計量機株式会社

- 本社 旭川市流通団地2条4丁目8番地
☎ 079-8442 TEL 0166-48-3515 FAX 0166-47-3515
- 札幌支店 札幌市白石区米里3条2丁目9番4号
☎ 003-0873 TEL 011-879-6255 FAX 011-879-6385
- 帯広営業所 帯広市東7条南14丁目1番地 13
☎ 080-0807 TEL 0155-28-5215 FAX 0155-28-5216

<http://www.hokutake.co.jp>

いのち、かがやけ
あすの「元気」を支えるチカラ

北海道に根ざした
総合ヘルスケア企業グループとして
健康を願う人々を支えつづけます

■ 医薬品卸売事業 / 株式会社ほくやく ■ 医療機器卸売事業 / 株式会社竹山 ■ 調剤事業 / 株式会社パルス 北日本調剤株式会社
■ 介護事業 / 株式会社マルベリー 株式会社モルス ■ ICT事業他 / 株式会社アドウィック 株式会社北海道医療情報サービス



株式会社ほくやく・竹山ホールディングス

〒060-0006 札幌市中央区北6条西16丁目1番地5



稲井電機株式会社

〒078-8275 旭川市工業団地5条3丁目3-7
(代) TEL 0166-39-7511 FAX 0166-39-7555
〈通信工事事務所〉 旭川市工業団地5条3丁目
(代) TEL 0166-39-7500

地球の環境に貢献したい
そして地球をさらに輝かせたい

株式会社 荒川設備

住宅・店舗等の給排水衛生設備
給湯・冷暖房・換気の設備
下水道工事
排水処理システムの提案・設計・施工
地球環境活性・復活のための製品の提供



〒059-0033
北海道登別市栄町3丁目18番地5
<http://www.kankyo-tantei.com>

TEL 0143-86-7138
FAX 0143-86-4118

道北振興の家

Douhoku Shinko
incorporated company

道北振興株式会社

- 本社 〒070-0035 旭川市5条通6丁目右1号
TEL (代) 0166-23-0211 FAX 0166-22-8036
- 小樽支店 〒047-0153 小樽市新光町324番地231
TEL 0134-51-2120 FAX 0134-51-2184
- 帯広支店 〒080-0010 帯広市大通南10丁目18 帯広東京海上日動ビルディング1F
TEL 0155-21-0202 FAX 0155-21-0203

■営業部/宅地・住宅販売 ■建設部/住宅設計・施工 ■駐車場部/5条パーキング・高速洗車場
■リフォーム部/住宅リフォーム ■保険部/東京海上日動火災保険株式会社代理店
■石油部/〈昭和シェル石油特約店〉神楽S S ☎61-5963・5条S S ☎22-8283・末広S S ☎51-9406
セルフ永山S S ☎48-7086・セルフ環状S S ☎33-9831・セルフ西御料S S ☎66-2311
灯油センター☎66-2311

文房具のことならおまかせ下さい!

感謝の気持ちをこめて

サックスセール

全館 SALE 20%OFF!

2014.8.26(火)~8.31(日)

営業時間 10:00-19:00 / 休業日 8.25(月)と9.1(月)

*一部ブランド・書籍・加工代など割引除外あり。
*セール期間のみ、15,000円以上のお買上げで道内配送料無料。
(大型品など一部除外品あり)
*7階スカイホール、1階インフォメーション、各階テナントは割引対象外。

7F GALLERY ギャラリー スカイホール	2F STATIONERY 文具のフロア 万年筆・筆小物・文房具
4F WA 和のフロア 書道・日本画・和雑貨	1F STATIONERY ZAKKA 文具雑貨のフロア カジュアル文具・雑貨・カード
3F ART アートのフロア 画材・額縁・デザイン用品	B1F PAPER 紙のフロア 紙・フライダール・印刷・印章



セントラル HP
(携帯・PC 共通)

CENTRAL
大丸藤井セントラル

札幌市中央区南1西3・電話(011)231-1131(代)
<http://www.daimarufujii.co.jp/central/>



安全・安心をお届けする
車の総合メンテナンス専門店

アップル車検 栗山

栗山自動車整備株式会社

お問合せ
ご予約は



0120-559-332

〒069-1508
北海道夕張郡栗山町湯地72番地3
TEL 0123-72-1331/FAX 0123-72-6288



北海道エナジテック株式会社

私たちは「安全・安心」をモットーに
クリーンで快適な生活環境を提案します。

- 灯油プロパンガスの販売
- 冷暖房・給湯設備・各種電化製品の販売
- 太陽光発電事業
- 不動産賃貸業務

主な事業所・営業エリア



北海道エナジテック株式会社

北海道白石区東札幌3条1丁目1-18
TEL 011-822-0171

DUSKIN
喜びのタネをまこう

健やかな毎日をダスキンが
お手伝いします。

上から下まで
お部屋まるごと
スッキリ。

おそうじ ベーシック3 登場!



STEP スタイルハンディ シュシュで

① 高いところも、棚上も

STEP スタイルフロア ララで

② 床や、すきまも

STEP スタイルクリーナーで

③ 吸い取りサツとおそうじ完了!

おそうじ
ベーシック3



① シュシュ

+



② ララ

+



③ スタイルクリーナー

4週間標準レンタル料金

1,890円 (税抜 1,750円) が

なんと!

➔ **600円** (税込)

4週間

おためし
いただけます。

ナットク!

サービスマスターエアコンクリーニング

エアコン内部にたまった汚れを放置すると、部屋中にまき散らすことに。普段できないエアコン内部のお掃除はプロにお任せください!



※イメージです。

クリーニング前と
比べると (ダスキン調べ)

風速がなんと ➔ 約40%UP!

カビの排出が ➔ 約90%減!

※製品の状態により洗浄効果に差が出ます。

キレイを
維持したい方は…

効果は
約1年
(ダスキン調べ)

エアコン
抗菌コート オプション

標準料金 (1台) **2,160円**

(税抜 2,000円)

※クリーニング料金に追加
※使用環境により効果の持続期間は変動します。

標準料金 家庭用壁掛けタイプ(幅120cm未満)

1台 **12,754円** (税抜 11,810円) 2台 **21,600円** (税抜 20,000円)

※フィルター自動お掃除機能(サイドファン等の付加機能)付きエアコンは1台 23,245円(税抜 21,524円)

お問い合わせは

ダスキンコールセンター
(24時間・土日祝も受付中)

 **0120-100100**

炭の家

「炭の家」システム供給5,000棟達成
(2014年3月末現在)

ニパークタウンでは、障がいのある人もない人も、里子達も、
いろんな人が共に「炭の家」で幸せに暮らしています。

わが家は、おスミつき。
株式会社ホーム企画センター

札幌市北区北38条西2丁目1番26号 TEL.011-756-4818

<http://www.114119.jp>